

合格体験記

2006年度卒業(会計専門職専攻) 三村 啓太

論文式試験の合格発表のネットでの掲示に自分の受験番号を見つけたときは正直信じられない思いでした。その後、財務局の掲示で自分の名前を見たときに合格を実感しました。

私は大学4年生で簿記2級を取得しただけなので、関学ASに入ったときは、どの科目もわからないことばかりで、授業についていだけで精一杯でした。しかし、その時の経験が後に始めた本格的な受験勉強に生かされたのだと思います。

関学ASの授業は専門学校とは異なり先生と学生の双方のやり取りが可能です。授業の後でも疑問点があればいつでも先生のところに行き質問をしていました。

そこで印象的だったのは、質問をしても「答え」を教えてくれるわけではないことです。問いに対する答えに到達するためのヒントを教えて頂き、答えは自分で「考えて」だすのです。何回も質問に行ったのでそこで「考える」ことが鍛えられたのだと思います。

論点について勉強している場合でも、なぜ論点となるのか、なぜ対立する理論があるのか、私の勉強方法では覚える作業よりも「考える」作業の方に圧倒的に時間をかけていました。そして深く考えた論点については気がつけば覚えているものです。

論文式試験では覚えたことを吐き出すのではなく、考えなければ答えが出ない問題が出題されます。どれだけ考えて勉強してきたのかが問われるのです。

今回論文式試験に合格できたのは、考えることの大切さを教えて頂いた関学ASの先生方、励まし合いながら勉強した友人達、そして何も言わずに見守ってくれた家族の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。



公認会計士試験合格体験記

2006年度卒業(会計専門職専攻) 米田 悦子

今年の受験にあたり、昨年の論文式試験の反省を踏まえて、計算を一からやり直そうとアカウンティングスクール(AS)の簿記、会計基準論、簿記課題研究、連結財務諸表論、原価計算演習等の会計学の講義を受けさせていただきました。計算と理論は別物扱いで、とにかく計算!と思っていたのですが、計算と理論を並行して講義を受けているうちに、計算の背景には必ず理論が存在し、計算と理論の体系的な学習が不可欠であることに気が付きました。今まで計算を苦手にしてきたのは、計算パターンに頼り、本質的な理解をしていなかったからです。仕組みが分かれば一瞬にして解答を導き出せることを教わった時は感激しました。ASの会計学のカリキュラムは大変充実しております。在学生で計算が苦手という方、ぜひチャレンジしてみてください。公認会計士試験における会計学の比重は大きいので、会計学を得意科目にして、逸早く合格されますことを願っております。

次に、企業法についても、ASの講義を通じて勉強方法の根本的見直しの必要性を痛感しました。論点を単に覚える方法は、多様な問題に対応できません。ASの講義により、法的考え方を身につけ纏め上げていく重要性を教えてくださいました。

又講義とは別に、時間をかけて一つの判例を研究し討論する企業法研究会があります。この研究会は、色々な人の意見を聞くことができ、視野を広げることの出来る絶好の場です。今年の問題は、研究会で取り上げられた判例が出ました。受験には直接関係しないと思われるかもしれませんが、論点、条文の解釈等を身につけることが出来て試験に大いに役立ちました。

最後に、ASのすべての講義を通じて、知識、技術の習得のみならず、論理的に深く考える力を身につける為のきめ細かなご指導をいただき、今回の合格につながったと思っています。ご指導下さいましたASの先生方、私を支えて下さった友人に心より感謝申し上げます。

